

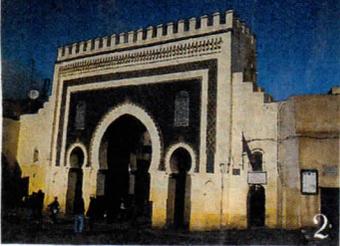
フェズ・エル・バリ



6月15日(火)

世界遺産

フェズの旧市街



1 世界最大の迷宮とよばれるフェズ・エル・バリ
2 メディナへの入口、ブー・ジュールド門

フェズの旧市街メディナ、フェズ・エル・バリ。9世紀初め、ここはモロッコ最初のイスラム王朝、イドリス朝の都となった。このときに造られた町が1000年を超えて今なお、市民の生活の場として生き続けているのだ。

城壁を巡らした内側には、無数の細い路地が網の目のように延びる。そのなかには、壮麗なモスクや神学校、美しいパティオをもつ民家、公衆浴場、スークと呼ばれる商店街がひしめいている。城壁の門をくぐり一歩足を踏み入れると、いきなり「カオス」の世界に放り出されたよう。荷物を乗せたロバを引き、大声を上げて歩いていく運搬人。モスクの聖水を売り歩く水売りの鐘の音、物売りの掛け声や働く子供たち。フラフラと歩いていると、人々の生活のバワーにひるみそうになる。やっぱりここはただのメディナじゃない。



世界一複雑な迷路の町、フェズ・エル・バリ。道は狭く、起伏に富み、上ったり下ったり、曲がったり、戻ったり……。坂が多いために、いまだに輸送手段はロバや馬だ。そこを人々がやっとすれ違う。歩き回るうち、同じ場所をクルクル

回っているような錯覚に陥る。高い建物の間の細い道に、昼でさえ暗いトンネルがあり、太陽の方向もわからない。いったん広場に出てホッとしても、また挑戦したくなる。フェズのメディナは、まさに世界一の迷路の楽園だ。

フェズは、モロッコ最初のイスラム王朝の都であった。イスラム教の祖であるムハンマドの婿、アリーの子孫にあたるムーレイ・イドリス1世は、8世紀末にバグダッドのイスラム王朝アッバース朝に反乱を企てるが、激しい迫害に遭い中央モロッコに亡命する。才能に恵まれ勇敢だったイドリス1世は、古くから住むベルベル人に絶大な信頼を得て、この地にイスラム王朝を興す。そして、808年、その息子であるムーレイ・イドリス2世は、フェズ川の西岸に新しい都を建設。このとき、チュニジアのカイルアンやスペインのコルドバからの移住者をも受け入れた。城壁で囲んだ町の中心に壮大なモスクを造り、イスラム神学校（マドラサ）が次々と建てられた。川の右岸アンダルース地区には、先住民ベルベル人とイベリア半島からの移住者が、左岸のカラウィン地区にはカイルアンからやって来たアラブ人がそれぞれに住みついた。やがて、ここを拠点に国の隅々までイスラム教が広まっていくことになる。フェズはその後いくつかのイスラム王朝のもとで発展し続け、信仰、芸術、商業の面でもモロッコを中心として栄華を極める。最盛期の13世紀のマリーン朝（→P.234）時代には新しい町が建設されるが、これがフェズ・エル・ジェディドである。これに対し、最初に造られた古い町はフェズ・エル・バリと呼ばれている。

現在、行政の中心は、20世紀のフランス領時代に造られた新市街（ヌーベル・ヴィル）に移ったが、人口32万人の半分がこのふたつのメディナで活気あふれる生活を営んでいる。



フェズのメディナ、フェズ・エル・バリ